

## 使用説明書



## 作動原理

モデル 122 インターフェース・メーターは直径 16mm の細いプローブを使用しています。赤外線回路が液体の存在を感知し、導通回路が導電性の液体(水)と非導電性液体(LNAPL または DNAPL)の違いを判定します。

## 装置のチェック

電源を ON にすると電子回路とバッテリーの動作チェックが自動的に行われます。短いブザー音と赤ランプが点灯すれば正常な動作状態であることを示します。

### 重要

安全の為、アース線を必ず使用下さい。アースを取らないと井戸中に溜まった引火性ガスにより、プローブや電子回路が爆発事故を起こす可能性があります。使用後はスイッチを切り忘れないでください。

## 現場での測定

1. スイッチを回して ON にする。短いブザー音と赤ランプが点灯すれば測定可能な状態です。また電源を OFF にしない限り、自動的に電源が切れる事はありません。
2. 井戸の中へプローブを下げっていきます。テープガイドを使用する場合は、ガイドの溝にテープを乗せながら井戸中へ下げっていきます。ガイドの V 字切り込み

がある位置で深度を読み取ります。(この読み取り値から 6cm マイナスした数字が測定水位となります。)

3. 連続したブザー音とランプ点灯は、液体が非導電性であること(汚染物質)を示す。断続ブザー音とランプ点滅は、液体が導電性の液体であることを示します。
4. (LNAPL) の場合は、水/LNAPL の境界面の測定をします。プローブを水中に通すと、表面張力によりプローブセンサー先端部に油膜等が付着することがありますので、最初に LNAPL の直下で水位検出をおこない、プローブを引き上げて軽く上下させプローブセンサー先端部に付着した油膜等を取り除く必要があります。
5. 井戸底に沈んでいる汚染物質(DNAPL)を測定するには、プローブをゆっくりと降ろしていき、断続ブザー音が鳴ったら沈んでいる層の上面の深度をテープから読み取ります。
6. プローブが井戸底に到達してテープが弛むまで更にプローブを降ろしていきます。この時の深度をテープから直接読み取ります。そして先程記録した断続ブザー音の深度を引き算すると DNAPL の厚さが分かります。
7. 全ての読み取りが完了したら、電源スイッチを OFF にし、以下の手順に従って、テープとプローブの汚れをきれいに落としてください。

## バッテリーの交換

ブザー音が弱くなってきたらバッテリー残量が少なくなってきた証拠です。現場にお持ちいただく前にバッテリー交換を行って下さい。バッテリーケースを持ち上げて引出すと少し前に飛び出します。交換バッテリーは 9V のアルカリバッテリーです。

### 重要

バッテリーの極性を間違えるとプローブが壊れますので、しっかりと極性の確認をお願いします。

**クリーニングとメンテナンス**

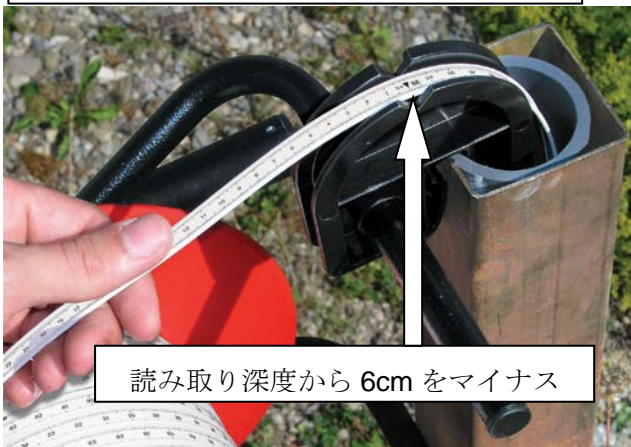
使用後はテープをきれいに拭いて、丁寧にリールに巻き取る。スチームでテープをきれいにする方法もあります。プローブは以下の方法でクリーニングできます。

1. 溶剤や熱湯はプローブを傷つける可能性があるため、柔らかいスポンジに中性洗剤をつけてプローブを洗います。先端のピンやプリズムは柔らかいクロス等で油をきれいにふき取って下さい。
2. プローブを蒸留水ですすぎ、湿り気をふき取って下さい。
3. プローブをホルダーに納めて下さい。

**使用上のご注意**

1. 使用後は毎回プローブをクリーニングして下さい。
2. アース線は必ず使用して下さい。
3. プローブを落とさない様にご注意下さい。
4. ブザー音が小さくなったらバッテリー交換をお願いします。
5. 使用後は電源をお切り下さい。
6. 動作確認は、プローブを油に浸け、断続ブザー音とランプが点灯すれば完了です。
7. できる限りソリノスト社製のテープガイドを使用して井戸ケースの上端でテープの傷つくのを防止して下さい。

テープガイド(管頭にセット)



読み取り深度から 6cm をマイナス

**トラブルシューティング****電源が付かない(ブザー音が鳴らない)**

1. バッテリーを交換して下さい。
2. バッテリーボックス内の極性をチェックして下さい。極性が逆ですとプローブが壊れます。
3. ON/OFF スイッチが壊れている場合は、弊社サービスセンターにご相談下さい。

**電源を入れた瞬間、断続ブザー音が鳴ってしまう**

1. プローブのセンサー部分が汚れている可能性がありますので、手順に従い、クリーニングして下さい。
2. 水がプローブ内に浸透している可能性があります。3本のネジを外し、プローブをテープ部分からスライドさせる(ワイヤーは付けたままにして下さい。)プローブを乾燥させ、湿り気を拭き、Oリングを調べてみて下さい。必要であればOリングを交換し、シリコン・グリスを塗って下さい。
3. テープが切れている可能性があるため、切れている部分をシールして下さい。

**油を水と誤認識する**

1. プローブを水の中から油へあまり早く引き入れるとプローブに水がついたままになり、プローブが誤作動を起す事があります。プローブの先端を覆っているステンレスの筒やその中の水気を完全に拭いて下さい。プローブ部分を振って水気を切り、プローブをゆっくりと使用して下さい。
2. 油の質が劣化、エマルジョン状態になっている可能性があります。劣化油の導通性が検知できるレベルになっていると、水と判定される事があります。

**水を検知しない**

1. プローブをクリーニングして下さい。
2. 水が純水で導電性がないか、油がプローブをコーティングしていないかをご確認下さい。
3. 弊社サービスセンターまでご連絡下さい。